

# 令和5年12月定例会一般質問

通告7

**質問 エゾシカの利活用推進を**

**答弁 利活用の取り組みを周知し後押しを行います**

6番 まつの みやこ 松野 美哉子 議員

【質問：松野 美哉子 議員】

6番、松野美哉子でございます。エゾシカの利活用推進について質問いたします。

中標津町鳥獣被害防止計画によると、住民生活や基幹産業の酪農、農作物の被害拡大を抑えるために、令和6年度の被害金額を5,478万円と目標値が出されております。

令和2年度はエゾシカによる馬鈴薯、デントコーン、野菜のほかに牧草の被害も多く、合計金額7,826万円で、交通事故で物損事故も12件とありました。

なお、駆除されたエゾシカを有効活用することを推進している当町の令和5年度の駆除期間の実績は947頭で、ペットフードへの利活用が932頭98.4%で、ペットフードのふるさと納税返礼品申込みは令和3年度では125件、令和4年度では倍以上の253件となり、中標津のエゾシカ肉のペットフードが飼い主にとって安心できるものとして広く認知されたのではないかと考えられます。

また、11月25・26日にはしるべつとを会場に第4回鹿フェスが開催され、農業高校生は味や鹿肉の硬さなどを工夫して、何度も先生方に試食をしていただいたという鹿肉のパテのハンバーガー、また支援学校生はペットフードとコラボした焼き物の器などを出店していました。その他会場では、様々なエゾシカ肉料理やジャーキー、冷凍の鹿肉も販売されていました。子供たちは鹿皮や角を使ったキーホルダーづくりに参加するなど、まさに当町のエゾシカ肉を食肉用として有効活用推進の方針に適合した取り組みであると評価出来ます。

これらのつながりから、交流人口の集客にもなり、エゾシカを無駄なく使った製品のクリエイターが集まり、空き家対策、移住促進にもつながる可能性をも考えられ、都会では出来ない中標津らしい産業になるのではとの思いを持ちました。獲られた命を少しでも多く利活用し、さらにエゾシカ肉の価値を上げるためにも、町内だけではなく他町、他府県



からの出店者と中標津の関係者とのつながり、信頼関係の向上が期待出来ます。

そこで伺いたいのは、第1点目として、当町では有害駆除の担い手である狩猟者を確保するため、猟友会の支援を推進する方針がありますが、昨年度、今年と駆除期間に狩猟者への頭数割当てをしたと聞いていますが、今後も同様な方法で行うのでしょうか。

2点目としては、令和5年度の被害の実態と今後の見通しについて説明していただきたいと思います。

最後に、他市町村の一步先に行くエゾシカ活用をさらに進展させるために町として支援をしていく必要があると思いますが、この点について町長はいかがお考えなのかお聞かせください。

### 【答弁：町長】

松野議員御質問のエゾシカの利活用推進について御答弁申し上げます。

エゾシカはその名のとおり、世界でも北海道にしか生息していない野生生物でありまして、明治初期の乱獲や大雪などの影響によりまして一時期は絶滅寸前まで激減いたしました。しかし、その後の保護政策によりまして、ここ30年ほどでエゾシカが急増しておりまして、現在道内全体では推定72万頭以上生息していると言われております。

北海道で生息してきたエゾシカは、先人たちにとりまして大切な動物でありまして、その肉は貴重な食材として毛皮や皮革などは衣類として無駄なく利用され、暮らしに密着した自然の資源として親しまれていたことがうかがえます。こうした先人の知恵には、今私たちが直面しますエゾシカによる問題を解決するためのヒントがありまして、増え過ぎたエゾシカについて節度を持って捕獲し、数を適正に管理しながら自然の資源としての有効活用すること。それが北海道の自然や生態系バランスを守ることとともに、私たちの暮らしに新たな恵みをもたらすことにつながると考えております。

1点目の質問の狩猟者への駆除頭数の割当てについてですが、中標津町鳥獣被害防止計画に基づき、駆除期間内の捕獲計画数を1,000頭と定めておりまして、許可頭数の超過を未然に防止する取り組みとして、駆除頭数の割当てを42人に行っているところであります。今後も同様に、駆除頭数の適正管理の観点から駆除従事者には割当てを行い、有害鳥獣を実施してまいります。

続いて2点目の令和5年度の被害状況と今後の見通しであります。令和5年11月末現在のエゾシカによる町内での車との衝突事故は25件発生しております。また、農作物の被害状況につきましては、令和3年度の被害額は7,714万円、令和4年度の被害額は7,680万円となっております。過去の状況から推測しますと、被害額は減少傾向にある

ことから、令和5年度の比較も微減、または同程度で推移するものと考えております。

最後にエゾシカ活用に対する町の支援についてですが、狩猟者の育成、流通体制の確立などを目指すとともに、ジビエの消費量を増やす、ジビエ産業の振興推進を図ってまいりたいと考えております。野生鳥獣を捕獲し加工しジビエとして供給することは、農作物の被害を減らせると同時に食肉の利活用により新たな収入源になる可能性もあります。ジビエの産業振興推進によって、地域での雇用や特産品、観光資源、新たな食文化の創出にもつながることが期待出来ます。

今後は、ジビエの栄養素をはじめ、ジビエ料理を提供するレストランやジビエ料理を販売している店舗、さらには鹿肉を購入できる店舗を紹介するなど、鹿肉を食べることについて鹿肉・鹿料理のポジショニングを変え、食文化として改めて広めていく必要があると考えております。

また現在、ふるさと納税返礼品として、エゾシカ皮2枚を用意しておりましたが、2枚とも納税者に返礼品として選んでいただいております。このように、エゾシカを活用した取り組みや鹿肉をはじめ、皮や角などの加工品としても展開していることから、取組事例を広く周知し、エゾシカ利活用の後押しを行ってまいりますので、御理解を賜りますようお願いいたします。